

第1回生物多様性ふくおか戦略(仮称)策定検討委員会の委員意見に対する対応

検討項目	委員意見	対応		スケジュール		
		反映の有無	対応方針	第2回	第3回以降	
用語の使い方	里地里山の定義	反映	里地里山環境の喪失は近年ではなく、戦後すぐに大きく進んだと修正。 確かに現在は機能しておらず、このため、里地里山環境に生育生息する多くの生物が絶滅もしくは、絶滅の危機にある。福岡市の生物多様性を考える上では、本来の里地里山の機能を取り戻すことも課題の一つであると考え。	検討事項		
	生物多様性・生態系サービス	反映	戦略の素案を作成する段階で、一般の方にもわかりやすいよう、表現を工夫。			
	生物多様性・生態系サービス	反映	一般の人にもわかりやすいよう、表現を工夫する。第2回委員会でアンケートの調査票案を提示する予定。			
他地域との連携	・市域内あるいは福岡都市圏で自己完結するのではなく、他の圏域との連携を重視したほうが良いと感じている。(浅野委員)	反映	行動計画、推進体制の検討に際して、他地域との連携を視野に入れた計画を検討。 (具体的にどの程度まで踏み込むか、要協議。)			
	・野鳥の生息環境に関して、福岡市は、繁殖地、越冬地、中継地などの評価すべきファクターがあり、市域に限定した生態系の評価は難しい。この点においても、福岡市外を含めた他の地域と連携する視点が大切ではないだろうか。(小野委員)					
	・他地域との連携の視点をもつことが重要だと思う。特に、哺乳類の場合には、個体数の増減を広域で捉えた方がよい。(荒井委員)					
現状整理のデータについて	地理的特性	反映	委員意見を踏まえ、修正。			
	移入種の増減等	記載済	生態系の健全性を左右する要因として、第2章1.(3)5)外来種の確認状況として記載済み。移入種の増減については、データが少ないが、市内河川における魚類について整理している。			
	用語の使い方	反映	委員意見を踏まえ、修正。			
	平均気温の経年変化	反映	日平均気温の経年変化を、最低気温の経年変化に修正。			
	グラフの示し方	反映	委員意見を踏まえ、修正。			
	哺乳類の現状分析	反映	環境省が実施している自然環境保全基礎調査の結果を基に、福岡県内における哺乳類の分布状況の変化を記載。			
	鳥類の現状分析	反映	データを提供頂いたものを、反映。			
	鳥類の現状分析	反映	委員意見を踏まえ、修正。			
	土地利用の変化	・どのような地形、土地が失われたのかを把握すると、生態系の変化の要因を探る手がかりになるのではないだろうか。土地利用の変化に伴うエコシステムの変化を把握していくとよいと思う。(横山委員)	反映	現在市街地として改変されたエリアが、過去にどのような地形であったのかを把握。変化の要因分析にも結果を反映。		
		・2万5千分の1地形図(明治33年作成、市街地部分のみ)、5万分の1地形図(明治33年作成)を参照すれば、開発される前の土地の様子が分かると思う。特に、自然堤防の分布を調べると参考になるのではないだろうか。(小野委員)				
・都市開発により、山から海への水の流れが昔と比べてどのように変わったのかを把握すると、分析の参考になるのではないだろうか。(服部委員)		記載済	第2章3.(1)1)水循環に記載済み。			
絶滅種について	反映	第2章2.(3)2)絶滅危惧種の確認状況の変化の項で、かつて生息していたが現在は生息が確認されていない種(ヒナモロコ等、上記種は、福岡市環境配指針(改訂版)に記載されていた種)について、記載。				
評価と変化の要因分析	生態系サービスの評価	一部反映	国連ミレニアム生態系評価、日本の里山里海評価などでも、農産物等の生産量は、評価の指標として用いられているため、それに準じた。 変化の要因として、経済的要因にもふれる。			
	生態系サービスの評価	未反映	生態系サービスを定量的に評価する手法としては、経済価値に置き換える手法などがあるが、文化的サービスでは一部に限られる。 本戦略を策定する上で重要なことは、生態系評価の仕方をどうするかではなく、戦略としてどのような目標を掲げ、どのような戦略を立てるかであり、そちらに重点を置きたい。生態系サービスの評価については、定性的な評価にとどまるものもある。 現段階では、戦後の高度経済成長期前後で大きく生物多様性が変化したと考えており、おおそ過去50年程度を目安として想定している。			
	判断基準	検討	矢印の向きについては、定量的な評価が困難なため、一律に修正。 矢印の向きについては、委員からの意見を頂き修正したいと考える。			
	判断基準	検討	矢印の向きについては、委員からの意見を頂き修正したいと考える。	検討事項		

変化の要因分析	<ul style="list-style-type: none"> ・「生物多様性と生態系サービスの変化の要因分析(資料4、p88～)」は、一般的な記述になっているようだが、是非福岡市ならではの特色が反映できるよう工夫してほしい。(横山委員) 	反映	委員の意見を踏まえ、修正。健全性や生態系サービスの評価についても、前項で述べているため矢印のみとしているが、福岡市の特色を反映するよう工夫する。	→	
	<ul style="list-style-type: none"> ・外来種は、地域生態系全体への脅威となる可能性があることを踏まえた方がよい。(薛委員) 	反映	委員意見を踏まえ、変化の要因として、地域生態系全体への脅威となる可能性があることを記載。	→	
戦略の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性というのは、守るべきものは守り、利用すべきものは利用するというスタンスの考え方である。いわば、「持続的に自然と共生する」ということであり、このことを明確に打ち出していくべきだと思う。(浅野委員) ・生態系というのはシステムそのものをいうのであり、常に変移し続けるものである。したがって、生態系を保全するという考え方そのものが成り立たないと思う。(浅野委員) ・福岡市には、ある程度自然を犠牲にしても、九州の経済を牽引する役割がある。このことを前提として、自然との共生を考える必要があるのではないだろうか。(今田委員) 	反映	生態系は人間との相互の作用によって成立していることを踏まえ、生物多様性の保全に偏らず、「持続的に自然と共生する」という考え方を戦略の方向性の検討に反映していきたいと考える。	→	
	<ul style="list-style-type: none"> ・特色によりゾーンで分け、各ゾーンでそれぞれ、自然を保全するのか、再生するのか、創出するのかなど、方向性を検討した方がよいのではないだろうか。(荒井委員・小野委員) ・都市の生態系を考える場合、自然地域と都市の内部を結びつける緑のコリドーという観点も大切である。(横山委員) ・コリドーの形成は、ヒートアイランド現象の緩和にも効果があると思われ、まちづくりの観点からの検討も必要と思われる。(小野委員) 	未反映	ゾーン区分については、戦略の位置づけを踏まえ、戦略とは別に環境基本計画の部門別計画として、別途検討する方向で考えている。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者アンケートのとり方はよく検討した方がよい。「生物多様性」という用語を用いない設問設定の方法を考えた方がよいだろう。(浅野委員) ・市民アンケートの設問は、生物多様に関する認知度などの一般的な情報を把握する。(矢部委員) ・昔の福岡市の環境を知る人と知らない人では、回答内容に差異が出ることも想定されるため、回答者の属性(特に、在住歴)を把握するようにしてほしい。(矢部委員) 	反映	一般の人にもわかりやすいよう、表現・語句の使用方法を工夫する。第2回委員会でアンケートの調査票案を提示する予定。	→	
アンケート調査について	<ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケートの設問は、生物多様に関する認知度などの一般的な情報を把握する。(矢部委員) ・昔の福岡市の環境を知る人と知らない人では、回答内容に差異が出ることも想定されるため、回答者の属性(特に、在住歴)を把握するようにしてほしい。(矢部委員) 	反映	生物多様性に関する認知度を把握する設問を設ける予定。	→	
	<ul style="list-style-type: none"> ・とともに、本戦略の内容にかかる情報(例えば、〇〇山をコリドーに指定する是非など)を収集できるよう留意して設計したほうがよい。(矢部委員) ・市民の意識を将来にわたって維持することも重要な課題となる。この点にも参考となるような市民アンケートの設計をしてほしい。(薛委員) ・「なぜ生物がいなくなったのか」を問いにしようだろうか。年代によって感じていることが違うと思うので、戦略を検討する際の参考になると思う。(服部委員) 	一部反映	市政モニターを使用するため、回答が選択式となるため、設問の設定が可能な範囲で対応することとしたい。第2回委員会でアンケートの調査票案を提示する予定。	→	
	<ul style="list-style-type: none"> ・九大の移転に伴って行われた一連の事業に関するシンポジウムの開催が予定されているが、本検討委員会もこれに関与することを検討してほしい。(浅野委員) 	要協議?	要協議?		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市で実施した自然環境調査のデータを集約して、戦略策定後のモニタリングに活用できないか。(薛委員) 	回答済	既存の自然環境調査のデータについては、本事業に関連して集約したいと考えている。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・干潟では、活動を行うということなので、この委員会で報告してほしい。(矢部委員) 	反映	今後、委員会で報告予定。	→	→